

防コミの歩き方

BOSAI
KOBE
MIRAI

兵庫区から「BOKOMI」を世界に発信!

●はじめに

平成22年7月2日、財団法人自治体国際化協会が実施する自治体国際協力支援モデル事業として、神戸市を訪問中のインドネシア共和国ジョグジャカルタ市の国立大学准教授、地域代表者などで構成された4名の視察団が防災福祉コミュニティ視察のため、兵庫区を訪問されました。

今回の訪問に際して、荒田地区防災福祉コミュニティのご厚意により、今年5月に新委員長に就任されたばかりの立道隆昭委員長に参加していただき、荒田公園内に設置された防災倉庫を見学させていただくことになりました。

●視察の状況

視察団からの質問は、防災倉庫に保管された各種防災資器材の使用法だけでなく、防災倉庫の鍵の管理状況、災害時連絡網の構築状況など多岐にわたり、立道委員長もそれらの質問に熱心に回答されていました。

また、防災倉庫視察の後、立道委員長から荒田公園内に設置されている100トン防火水槽を見学させていただくとの申し出があり、可搬式小型動力ポンプ等の防災資器材の視察もあわせておこなわれました。

当初の計画では、視察時間は1時間程度の予定でしたが、最終的には2時間以上に及び、2006年のジャワ中部地震で、阪神・淡路大震災と同じ6千名以上の死者を出し、大きな被害を受けたインドネシア共和国ジョグジャカルタ市においても地域住民による防災力を向上させたいという視察団の強い熱意を

感じることができました。立道委員長も大変感心されて、今後、防コミ活動を継続するにあたり励みになるとおっしゃっていました。

●兵庫区から「BOKOMI」を世界へ

視察の最後には、立道委員長から訪問記念として荒田地区防災福祉コミュニティのユニフォームと帽子が贈呈されました。また、視察団からは視察への協力に対する感謝として記念品が贈呈されました。この記念品はスマトラ沖で発生した大規模地震による大津波で被害を受けた被災地への復興支援として、日本の技術指導のもとで製作された工芸品とのことです。

今回の視察により、兵庫区から「BOKOMI」の世界発信にわずかながら貢献できたのではないかと思います。また、「ARATA-BOKOMI」が発信した熱意と想いがインドネシアで受継がれていくことを切に願っています。末筆ながら、平日の昼間にもかかわらず視察の受け入れを快諾して下さった立道委員長に厚く御礼申し上げます。

